目次

第一章　平安仮名文献の表記……一

元永本古今集の書法―仮名文献の中の漢字―……三

重出歌の表記の差異　四　書式の多様性　七　句読と表記　一三
和歌の漢字表記　一四　漢字表記の目的　一七　まとめ　二〇

西本願寺本三十六人集の非古典仮名遣……二四

平仮名文献の転呼音表記　二五　筆（書写者）別の非古典仮名遣　二七
非古典仮名遣の広がり　四〇　語彙別に見る非古典仮名遣　四四
非古典仮名遣をとる語彙の特徴　四七　まとめ　五一

平安仮名資料の「四つ仮名」「開合」の違例表記……五四

古典仮名遣に反する表記　五六　違例表記の解釈　六三
再び―西本願寺本の違例表記の解釈―　六六　まとめ　七五

類聚古集の表記―ミセケチで訂正したもの―……七八

ミセケチ訂正の意味すること　七九　転呼音表記の実態　八一

校訂者の規範に基づく訂正―転呼音現象の場合― 八四　校訂者の目を逃れた語群 九〇
誤った回帰のミセケチ訂正 九六　転呼音形への校訂 九九
「オ」と「ヲ」の混同 一〇〇　まとめ 一〇六

第二章　古典解釈と仮名遣 …… 一一三

解釈に影響した転呼音表記―「なほ（猶）」の場合― …… 一一五
古今集古写本の「なほ」と「なを」 一一六　平安仮名文献の「なほ」と「なを」 一二〇
定家筆本の「なを」 一二三　定家が漢字表記を選択した理由 一二七　まとめ 一三三

助詞の「お」表記と「ぎなた読み」 …… 一三六
助詞の「お」表記 一三七　ミセケチの意味すること 一三九
助詞「を・へ・は」の「お・え（ゑ）・わ」表記の実態 一四三
平安時代末期の「オ」「ヲ」の音価 一四五　句読の箇所と助詞「お」表記 一四九
まとめ 一五三

助詞の「わ」表記と「いろは歌」 …… 一五五
近代における助詞「わ」表記 一五五　平安仮名文献の助詞の「わ」表記 一五九
助詞「は」の発音 一六〇　助詞の「わ」表記回避の痕跡 一六三
中近世における助詞の「わ」表記 一六四　いろは歌の普及 一六七
いろは歌の表記法 一六八　助詞「わ」表記の特異性 一七二　まとめ 一七六

第三章　仮名遣と仮名文字遣……一八一
誤った回帰―「はらは（私）」「はたる（渡）」―……一八三
虎明狂言本の用例　一八三　　中世・近世の用例　一八六　　ハ行音の仮名遣　一八九
「誤った回帰」と尚古思想　一九五　　まとめ　一九九
仮名の異名―ちぢみ〈え〉―……二〇三
ちぢみ〈え〉という呼称　二〇四　　仮名の見立て―「～の字（文字）」の場合―　二〇七
異体字の選択と仮名文字つかい　二一三　　平仮名書いろは歌の〈え〉の字体　二一四
まとめ　二一九
「仮名ちがい」の諸相……二二三
「仮名ちがい」の範囲　二二四　　「アハワ三行」の「仮名ちがい」　二二九
「む―ん」と「仮名ちがい」　二三六　　「開合」と「仮名ちがい」　二三九
「四つ仮名」と「仮名ちがい」　二四二　　まとめ　二四八
第四章　異文と音韻史……二五三
異文の並立―「しぎのはねがき」と「しぢのはしがき」―……二五五
異文成立を支える説話　二五七　　異文の成立―意識的改訂―　二六三

異文の成立―無意識的改変― 二六五　異文成立に関する諸条件 二七二
まとめ 二七五
真名伊勢物語の独自異文……二七九
古注に基づく表記―「衛府無」の場合― 二八一
転呼音の反映した表記―「名乎」「千色」の場合― 二八六
まとめ 二九〇
ハ行頭子音の唇音退化による異文―青紙（平地）・飛鴈（帰鴈）―……二九四
天正本に引用された和漢朗詠集 二九四　異文成立の条件―ハ行とカ行の問題― 二九九
異文成立の条件―ハ行音とカ行音の問題― 三〇四
異文成立の条件―四つ仮名の問題― 三〇七　まとめ 三一〇
第五章　字体分析の言語遊戯……三一三
牛の角文字―「ひ」から「い」へ―……三一五
古写本の表記の確認 三一七　正徹の書写態度 三二〇
「い」説成立の要因 三二三　「恋」の仮名遣―「こひ」と「こい」― 三二六
「い」説否定の根拠 三三一　仮名文字つかいの影響 三三三
まとめ 三三五

類形漢字の言語遊戯―「牛」と「午」――……三四〇
類形異字―牛と午―　三四三　字画の少異とその許容　三四五
類形漢字識別の実態　三四七　類形字の誤認により生じる問題　三五〇
類形字の諸相　三五三　まとめ　三五五
字体分析の言語遊戯―合字・分字――……三五九
合字・分字の文化　三五九　誤写・誤認による分字・合字　三六三
合字・分字による異文の成立　三六八　文献に登録された合字・分字　三七一
まとめ　三七五
字謎の言語遊戯―漢字の初等教育――……三七七
知的言語遊戯としての漢字分析　三七八　言語遊戯と漢字分析　三八一
漢字分析の多様性　三八七　漢字分析と教育　三九五
まとめ　三九八
あとがき……四〇三
事項・用語索引……四〇七